

## 第2編 基本構想

## 第2編 基本構想

### 第1章 柴田町の将来像

#### 1 まちづくりの基本理念

柴田町では、これまでも多くの人たちが関わり、協力し合いながらまちづくりを進めてきました。

今後、さらにまちづくりを発展させるためには、誰もが同じ目標を持って、助け合いながら行動することが必要です。

そこで、普遍的であり、かつ、全ての住民が共有できるものとして、平成22年(2010年)4月に制定した「柴田町住民自治によるまちづくり基本条例」に掲げる基本理念を基本構想においてもまちづくりの理念の基本とします。

図：まちづくりの基本理念

- 1 住民が安全に、安心して暮らせるまちづくり
- 2 住民の一人一人が個人として尊重され、住民の思い及び活動が活かされるまちづくり
- 3 先人が築いてきた文化、伝統等を大切に、地域の個性を生かしたまちづくり
- 4 多様な団体及び個人が交流し、又は連携し、住民がお互いに助け合う思いやりのあるまちづくり
- 5 住民であることの誇り及びまちの良さを子どもたちに引き継ぐまちづくり

## 2 まちの将来像

基本理念をもとに、今後のまちのあるべき姿（将来像）を、次のとおり定めます。

### 笑顔があふれ 誇りと愛着を育む 花のまち

一人一人が思い描く“柴田町での暮らし”は様々です。考え方や生きがい、将来への進み方もそれぞれ違いがあるかも知れません。

そうした中でも、住民の皆さんが誇りと愛着が持てる未来像を描き、一人一人の個性や能力を發揮し、互いに協力しながら、ともにまちづくりを進めていきたいという思いから、新たなまちづくりの将来像を「笑顔があふれ 誇りと愛着を育む 花のまち」とします。

柴田町に暮らす誰もが、四季折々の景観が美しいまちで、暮らしの豊かさや安心、幸せを実感できるとともに、暮らす人、働く人、訪れる人が協力し合い、様々な分野で個性や能力を發揮しながら、一人一人が地域に愛着と誇りを持てるまちに育て、多くの人々がこれからも住み続けたい、住んでみたい、訪れてみたいまちを創造していきます。

図：まちの将来像



### 3 将来像実現のための基本目標

新たなまちの将来像を設定するとともに、その実現に向けた5つの基本目標を定めます。

#### 基本目標1 快適な公共空間の整備

##### 四季折々の景観が美しい心いやされるまち

柴田町の未来の都市像を<sup>※1</sup>コンパクトプラスネットワーク型とし、槻木駅、船岡駅、船迫エリア、東船岡駅を起点にした大沼通線や新栄通線エリアと農村部をネットワークで結び、安全で快適に暮らすことのできる都市基盤や生活基盤の整備、公園、緑地、広場といったオープンスペースや街路樹等をグリーンインフラとして整備し、魅力あふれる都市空間を形成することにより、歩くことが楽しい心いやされるまちづくりに取り組みます。

また、四季折々に美しい景観が将来にわたって損なわれることのないよう、自然環境の保全や農村、里山の風景を保全活用するとともに、自然の生態系を守り、環境への負担の少ない、資源循環型のまちづくりを目指します。

#### 基本目標2 教育・文化・交流都市の創造

##### 一人一人の夢や希望を拓く創造性豊かなまち

子どもたちが安心して快適な学習環境の中で学ぶ力がつけられるよう学校施設の長寿命化を進めるとともに、学力・英語力・体力の向上に努め、また、心のケア体制を整備し、学校と地域の協働教育によって子どもの持つ可能性を引き出すよう努めます。

また、歴史的な建物の<sup>※2</sup>リノベーションや文化ゾーンの中核となる図書館、いざというときの避難所となる総合体育館といった文化・スポーツ拠点施設を整備するとともに、住民自らがイベント、祭り、<sup>※3</sup>マルシェ等を開催し、国内外の多くの人々と交流を深めることで、多様な生活文化の創造や、まち中でのにぎわいづくりにつなげ、一人一人の夢や希望を拓く、創造性豊かなまちづくりを目指します。

<sup>※1</sup>コンパクトプラスネットワーク型：P.139 参照

<sup>※3</sup>マルシェ：P.144 参照

<sup>※2</sup>リノベーション：P.144 参照

### 基本目標3 子育てにやさしい安全で安心なまちの構築

#### 誰もが安心して暮らせる住みよいまち

子育て家庭が、安心して子どもを産み育てることができるよう、小規模保育園への支援による保育所等利用待機児童ゼロへの取組、地域の人たちとの協働のもとに子どもが元気で活発に活動できる居場所づくりや保育ママの充実、子どもの貧困対策としての学習支援や<sup>※1</sup> 子ども食堂への支援等、子育て環境を整え、多くの若い子育て世代や子どもたちを優しく支える安全で安心な地域社会の実現を目指します。

また、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、医療・介護、住まい、生活支援、介護予防が一体となって提供されるよう<sup>※2</sup> 地域包括ケアシステムの構築を急ぐとともに、交通弱者や買物難民のための足の確保に努めます。

さらに、多発する地震、水害、土砂災害に対応するために、計画的にハード整備を行うとともに、住民との協働による防災・減災・防火活動を通じて、ご近所の底力といった地域の安全力の向上を図りながら、自然災害に対する防災・減災力の強化、火災への備え、犯罪や交通事故の防止につながる地域の安全安心ネットの構築を図ります。

### 基本目標4 地方創生による稼ぐ力の醸成

#### 「花のまち柴田」を通じたにぎわいのあるまち

平成27年(2015年)10月に策定された「柴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく、「花のまち柴田」のブランド化や「<sup>※3</sup> フットパス構想」によって、磨き上げてきた柴田町の魅力や誇りを今後さらに国内外にアピールする<sup>※4</sup> シティプロモーション活動の展開や、インバウンドや<sup>※5</sup> フラワーツーリズム、<sup>※6</sup> スポーツツーリズムを盛んにすることで、集客力の絶対数を増やし、にぎわいのあるまちづくりを目指します。

また、里山の魅力と地域で始まったどぶろくの製造・販売、産直、農村レストラン、<sup>※7</sup> グラマラス・キャンピングといった小さな仕事おこしを組み合わせることで、集落の中に働く場所をつくり、地域の自立と稼ぐ力の醸成につなげていきます。こうした集落ビジネスを地域が一体となって盛り上げていくことで、田園志向の強い若者や女性を呼び込み、地域への新しい人の流れをつくっていきます。

※1 子ども食堂：P. 139 参照

※2 地域包括ケアシステム：P. 141 参照

※3 フットパス：P. 143 参照

※4 シティプロモーション：P. 140 参照

※5 フラワーツーリズム：P. 143 参照

※6 スポーツツーリズム：P. 141 参照

※7 グラマラス・キャンピング：P. 138 参照

## 基本目標5 参加と協働による住民自治の実践

### みんなが主体的に活動する協働のまち

まちづくりや地域づくりの担い手である住民や、まちおこしに関心を持つ若者やクリエイティブな人材を呼び込み、まちづくりを支援するサポーター、NPO、仙台大学をはじめ教育・研究機関等と連携、協働し、地域課題の解決を図りながら、より住み良いまちづくり、地域コミュニティの再構築に努め、みんなが主体的に活動する協働のまちづくりを目指します。

さらに、柴田町や地域の人たちと関わりを持つ人たち、いわゆるつながり人口を増やすために、田舎暮らしの魅力についての情報発信力を高めるとともに、移住後の生活をサポートする相談体制を整備します。

また、人口減少、超高齢社会が進行する中で、職員の意識改革や能力の向上、まちづくりを担う人材の育成を図るとともに、各自治体間での広域連携を強化し、さらに、<sup>※1</sup>公共施設等総合管理計画等に基づき、財政負担の軽減や平準化を図り将来も持続可能な行財政を可能とする先進的な自治体運営に努めます。

---

<sup>※1</sup> 公共施設等総合管理計画：P.139 参照

## 第2章 将来人口について

### 1 計画期間の目標人口

柴田町の総人口は減少を続けており、住民基本台帳による平成30年（2018年）9月末時点の総人口は37,980人となっています。

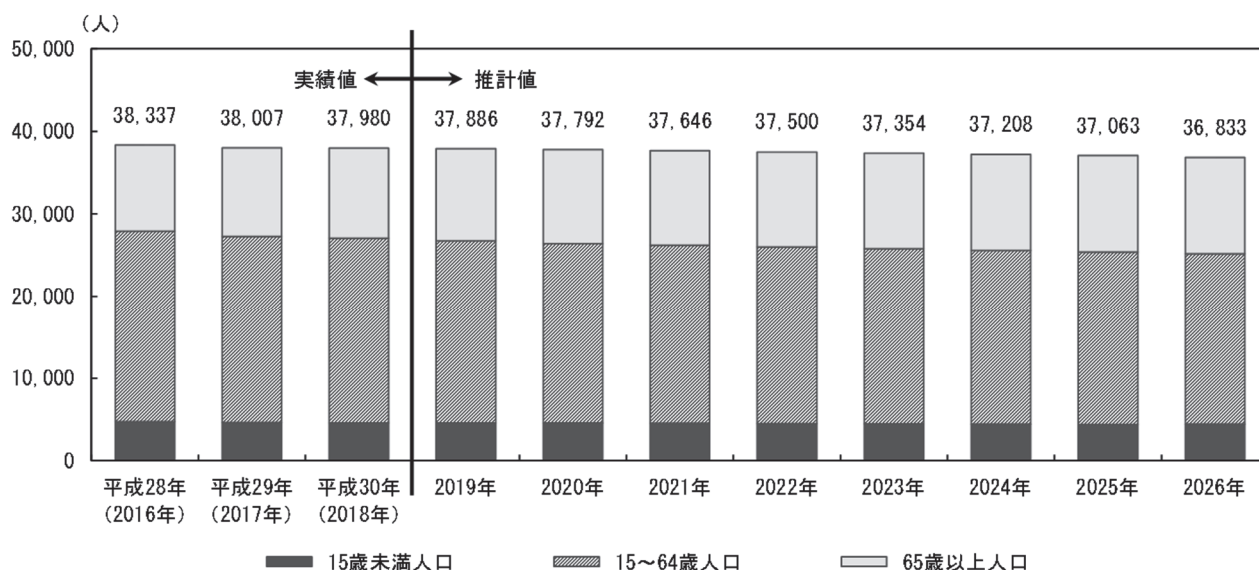
こうした人口の減少は、地域経済の低迷や行財政基盤の脆弱化、地域コミュニティの崩壊など、将来の地域社会の存続に大きな影響を及ぼすものと考えられます。

こうした中で、平成27年度（2015年度）に策定した「柴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、2040年に34,000人を維持することを目標とした人口を設定しています。

本計画では、人口減少に歯止めをかける様々な施策を積極的に展開し、2026年の目標人口を「柴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推計値を使用し、36,800人としています。

図表：推計人口と人口（実績・推計値）の推移

2026年の将来人口（推計・目標） 36,800人



区 分	住民基本台帳人口 (現状値)	柴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略 (推計値)	
	平成30年(2018年)	2022年	2026年
総人口	37,980人 (100.0%)	37,500人 (100.0%)	36,833人 (100.0%)
年少人口 (14歳以下)	4,561人 (12.0%)	4,511人 (12.0%)	4,418人 (12.0%)
生産年齢人口 (15歳～64歳)	22,489人 (59.2%)	21,493人 (57.3%)	20,767人 (56.4%)
老年人口 (65歳以上)	10,930人 (28.8%)	11,496人 (30.7%)	11,648人 (31.6%)

注) 平成30年(2018年)は住民基本台帳による実績値(9月末)、2022年・2026年は、柴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略による推計値(区間按分値)

# 第3章 施策体系

図：施策体系

